

令和7年度 第1回 隠岐の島町アイノマゲート推進協議会 議事録

日 時：令和7年6月20日（金）13：30～15：00

会 場：隠岐の島町役場2階 201会議室

出席者：別紙参照

1. 開会

2. 会長あいさつ

桑子会長：前回の協議会以降、西郷港周辺まちづくりについて見直しをすることとなった。また、「海に見える交流館」の設計者及び運営事業者が決定した。今回は西郷港周辺まちづくりの見直し案の説明と設計者及び運営事業者の報告を行う。

3. 議題

1) 西郷港周辺まちづくりの現状について

◇質疑応答・意見

齋藤氏：大社周辺の見直しについてはもっと早く現在案にすることが出来たのではないかと。交流館のコンペまでに修正していれば、建物の形も変わっていただろう。関係者への周知は早く行うべきだ。

事務局：大社側の意向が表明されたのが交流館の設計者や運営者の最終選定に入った段階だったため、該当地の周辺の地権者への情報提供と調整を優先させていた。交流館の設計者・運営者の報告に併せて見直し案を説明するために本協議会を開催したが、いち早く情報を提供すべきということには同意見である。今後情報周知に関しては適切に行っていく。

谷本氏：ビューポートの2階部分の活用方法は。

事務局：商工観光課の今年度事業として2階部分の改修を行う。隠岐民謡の披露等、観光事業への活用や集会・教室等が実施できる場所とする予定である。

谷本氏：交流館や他施設とのアクセスはどうなるのか。

事務局：現在設置されているスカイブリッジは今後撤去する。フェリーターミナルから交流館を経由してビューポートへ向かう動線になると予想しているので、2階部分へは1階エレベーターから移動してもらうようになる。交流館周辺の広場活用の拡大を検討している。

村上氏：「出雲大社分院通り」という通りは無くなり、名称も使わないという認識でよい

か。

事務局：その通りである。

村上氏：当初計画ではターミナルの海側に公園のようなものが見受けられるが、見直しがあるのか。

事務局：当初計画としてお渡ししている資料図面通りになるとは限らないが、町民や観光客が利用できる海側のスペースを作る事を目指している。引き続き島根県と協議していく。

2) 「海に見える交流館」の設計者及び運営事業者の決定について

◇質疑応答・意見

桑子氏：22日に実施するシンポジウムにて設計者・運営者を交えてより詳細にお知らせするので、皆様には是非おこしいただきたい。

3) 官民連携事業について

◇質疑応答・意見

桑子氏：まちづくり研究所については町と共同して事業をおこなうという認識でよいか。

事務局：伴走して事業を行う部分もあるが、事業者独自でおこなう事もある。今回、まちづくり研究所が作成した事業計画を資料として配布している。テレワーク・サテライトオフィス利用としては町が行う事業に類似したものがあるため、広く公募を行ったうえで、まちづくり研究所が関わる事が出来るのならば連携して行えるのではないかと。また商品開発についても同様に連携できる部分がある。

齋藤氏：まちづくり研究所からは事業計画を出した後の町とのコミュニケーション不足を感じていると聞いている。資金のある会社ではないので動きにくいのではないかと。町からのフォローは。

事務局：例えば、町独自で発行している情報紙や SNS などはずぐにでも連携できる部分だと捉えている。お互いにコミュニケーションをとりつつ、形にしていきたい。

谷本氏：資料 17p の図面内にて民間によるエリアマネジメントという範囲があるが、このエリアマネジメントをまちづくり研究所が行うという意味か。

事務局：まちづくり研究所にも行ってもらいたいですが、必ずしも 1 社しかエリアマネジメントが出来ないというわけではない。民間による民間の発想で複数の企業・団体に参加してもらいたい。

谷本氏：民間と何を連携して行っていくのかテーマ等があるか。

事務局：空き家の実態調査や再活用について取り組みたい。また、町のにぎわい促進についてはまちづくり研究所がイベント等を計画し行っている。今後町との連携したイベントの実施も検討する。

谷本氏：資料 17p の図面内にて空き家の表示があるが、空き家バンクに登録されているか。

事務局：登録されているものも含まれている。現状として配布資料に記載した数よりも多くの空き家がある事を把握している。

4) ニュースレターの発行について・その他

◇質疑応答・意見

谷田氏：全体を通しての意見。事務局からの情報と町内で広まっている情報に食い違いがあり、個人的に町政に対しての不安があった。今回、事務局の背景や事情を推察し、協議会での説明については納得したが、実際に生活されている方へどれだけ寄り添えるのか、思いを吸い上げる姿勢がどれだけあるのかが大事ではないかと思った。事務局からの情報が正しいものであるはずなので、少しでも早い情報発信を行い、町民と一緒に作っていくという雰囲気形成をお願いしたい。

副町長：事務局からの情報についてはこれまで以上に迅速に伝えなければならないが、出すことが出来る情報とそうでない情報の選択は慎重に行う必要がある。タイムリーに共有できない状況に対して申し訳ないと感じているが、ご理解の程お願いしたい。

4. 閉会